

平成27年度 まちづくり活動助成 「地域“魅力”アップ部門」公開選考会

日時 平成27年5月30日(土) 10時30分～15時00分
会場 名古屋都市センター 14階 第1・2会議室

平成27年度のまちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門」を受ける団体を選考する公開選考会を行いました。今年度は5団体の応募があり、各団体が提案発表を行いました。

**平成27年度 まちづくり活動助成
地域“魅力”アップ部門
公開選考会**

日時 / 平成27年5月30日(土)
10時30分～15時00分
会場 / 名古屋都市センター14階
第1・2会議室

プログラム

10:30 開会
10:35 地域“魅力”アップ部門 一次審査【提案発表・質疑応答】

順番 申請団体
1 ひらひら日本
2 和みの散歩道の会
3 特定非営利活動法人久屋・エコまちネット
4 特定非営利活動法人 PPKグループ
5 片平学区連絡協議会

11:50 “はじめの一歩”部門 結果公表
12:00 地域“魅力”アップ部門 一次審査 投票
13:30 地域“魅力”アップ部門 一次審査 結果の公表
13:35 地域“魅力”アップ部門 二次審査 (公開質疑)
14:00 地域“魅力”アップ部門 二次審査 投票・審議
14:45 地域“魅力”アップ部門 最終結果公表・委員長講評
15:00 閉会

※都合により、時間は前後する場合があります。

(発表順)

応募団体一覧 (5団体)

1. ひらひら日本
2. 和みの散歩道の会
3. 特定非営利活動法人 久屋・エコまちネット
4. 特定非営利活動法人 PPKグループ
5. 片平学区連絡協議会



挨拶：青木参事



司会：藤井課長

◆ 開会、委員紹介

名古屋都市センターの参事による挨拶と、会の進行についての説明のあと、選考する「名古屋都市センターまちづくり基金運用委員会」の委員を紹介しました。

名古屋都市センターまちづくり基金運用委員会 委員 (5名)



委員長

名古屋大学大学院
環境学研究科教授

西澤 泰彦 委員



副委員長

名古屋工業大学大学院
工学研究科准教授

石松 文佳 委員



特定非営利活動法人
こどもNPO理事

田尾 幸子 委員



公益社団法人
名古屋青年会議所
副理事長

川中 洋太郎委員



名古屋市住宅都市局
都市計画 部長

宮部 晃 委員

◆ 注意事項と進行方法について

公正を期するため、また、各団体の活動をより多くの人に知ってもらうため公開としていることを伝え、選考の進め方についての説明を行いました。

選考は、1次審査と2次審査で行います。1次審査は事前に提出いただいた申請書類とこれから行う提案発表・質疑応答で審査します。

2次審査は1次審査通過団体に対し、委員による公開質疑を行います

その結果を踏まえ、委員全員が「選考にあたって重視する点」の5項目の必要性、独創性、実現性、発展性、活動実績と主体性についてそれぞれ「3点」「2点」「1点」「0点」と評価し、委員の平均点を出示します。

原則として、委員の平均点が12点以上の団体について、予算の範囲内で上位団体から順に選考します。

また、12点未満であっても、特に助成の必要があると評価する団体について、予算の範囲内で上位団体から選考することができることとしています。なお、選考団体の申請額の合計が予算を超えるようであれば、申請額を減額し助成することもあります。

◆「地域“魅力”アップ部門」1次審査 団体による提案発表と質疑

発表時間は各団体7分間、その後の質疑応答は5分間です。1分前にタイムキーパーがベルを鳴らし、『あと1分です』と書かれた札を掲げます。終了時間になるとタイマーがなり、タイムキーパーが『終了』の札を掲げ、終了します。



提案発表～質疑

提案発表（7分間）

質疑応答（5分間）

1 ひらひら日本



団体が主催するフィールドツアーに参加してもらうことで、気軽にまちづくりに参加できることを知ってもらい、「ひらひら日本2015」を通して住みやすいまちを作っていくための基盤をつくるなどの提案を行いました。

石松委員 提案内容と添付のチラシの出展募集の「イベント」との関連を教えてください。提案内容のイベントは出展募集を行い開催されますか。

発表者 出展募集は自分たちで主体的に企画する側になるということです。Webなどで情報を共有し、参加者がひらひら日本を通しつながっていくことでまちが変わるという流れを作りたいと思っています。

石松委員 出展料等は必要ですか。

発表者 一般の方からの応募は出展料を予定していますが、今回の提案は別の形で行うイベントを10件ほど用意しています。その中にはチラシのイベントと共通のものもありますし、まったく新しいイベントも予定しています。今回の提案は、気軽に応募してもらえよう出展料を頂かない代わりに、まちづくり活動の助成金を活用したいと思っています。

石松委員 フィールドツアーの講師謝金についてですが、講師は団体外部の方を予定していますか。

発表者 講師は出展者を予定しています。

石松委員 活動団体内に対する謝金は助成金の対象外ですので、明確にして頂きたいです。謝金の支払いはすべて外部の講師でよろしいですか。

発表者 講師はすべて団体外部の出展者を考えています。

石松委員 フィールドツアーの開催場所はどこですか。

発表者 開催場所は、名古屋市を中心とした県内の川沿い、緑の多い公園などを想定しています。

石松委員 参加費を支払うイベントは助成対象外ですが、フィールドツアーの参加者から参加費は徴収しますか。

発表者 参加費が発生しないよう調整します。

石松委員 提案にある「主体的なまちづくり」や「つなげる」ことについて、どのように考えていますか。

発表者 まちづくり活動が住民主体の取組みになっていない現状があります。花や緑は誰もが取組みやすいテーマだと思うので、それをきっかけにまちづくりにどう役立っているか、つなげることが役割だと考えています。

2 和みの散歩道の会



「和みの散歩道」をより一層親しまれる魅力的な空間として発展させ、多くの住民と地域交流とまちづくりを推進させるため、「和みの散歩道祭」の開催やのぼり旗の制作、案内看板の設置などの提案を行いました。

宮部委員 イベントの来場者や地域住民の「場所がわかりづらい」という声について具体的にお聞かせください。

発表者 「和みの散歩道祭」などのイベント開催時には地域以外から多数の来場者があり、その際に覚王山や池下からどう行くのかよく聞かれます。イベント開催時以外も地域住民の散策など、場所がわからないという声があります。

宮部委員 「和みの散歩道の会」の活動場所の範囲はどの地域を想定していますか。

発表者 基本的には、千種区を中心に考えています。千種区以外にも会員が名古屋市内、市外におり、幼稚園から大学生も賛同して、会員の作品展示や演奏会に出演しています。

宮部委員 提案内容にあるのぼりや案内看板についてですが、設置するにあたり許認可等が必要になりますが、設置場所の管理者との連絡や調整はどのようになっていますか。

発表者 道路の管理者に、提案を進めたいという話はしました。公道なので難しいということでしたが、話をして一般の方の通行に迷惑がかからない範囲内で進めています。

宮部委員 設置場所や仕様の調整がしっかりできていないと、助成の対象とはなりません。

発表者 今後も調整をしていきたいと思います。

3 特定非営利活動法人 久屋・エコまちネット



久屋大通公園の新たな利用の創出と誰もが心地よく健康づくりができるよう、「スローランニング」

田尾委員 まず、提案内容の必要性についてですが、「市民のイベントへの今後の期待が大きい」という根拠、また、アンケートについてお聞かせ下さい。

発表者 アンケートやヒアリングは昨年1年かけて行いました。対象者は地域の方をはじめ様々なワークショップの参加者で、100名から200名ほど実施しました。

田尾委員 提案書や発表で、有料のほうが継続性が増すとありますが、今回の提案内容のイベントを参加費無料で実施する意義についてお聞かせください。

発表者 参加者より、有料の方がモチベーションが上がるという意見が多数ありました。そのため、現在実施中の「太極拳」のプログラムは有料でそのまま実

「パークヨガ」「ピラティス」等を開催し、健康的で住みやすい持続可能な社会やコミュニティをつくる提案を行いました。

施し、提案から外しています。講師の人選は非常に大切だと考えていますので、今回はその部分に助成金を活用し、提案する新しいプログラムは無料で実施します。

田尾委員 愛知学院大学地域連携センターとの連携についてお聞かせ下さい。

発表者 約1年前から、まちづくりの中で協働で何ができるか、先生の意見や、学生さんの意見も取り入れて進めている段階です。

田尾委員 活動の提案の中の主体性についてと、ファシリテーターの役割をお聞かせください。

発表者 広報活動に力をいれ、キタヒサヤビューティープロジェクトのひろがりをもどのように作っていくか、「美しく健康」というイメージを発信することで。まちそのものを「美しく健康」にをテーマと考えています。

4 特定非営利活動法人 PPKグループ



活動拠点の藤が丘周辺で高齢者が参加して楽しめる「シニアのためのハロウィン仮装フェスティバル」を開催し、高齢者に地域との交流の場を提供し、地域の活性化を行うという提案を行いました。

川中委員 「ハロウィン仮装フェスティバル」とまちづくりの関係性を教えてください。

発表者 外に出てきにくい独居の高齢者の交流を生むため、非日常である「ハロウィン仮装フェスティバル」を行うことで、地域の方にイベントを知っていただき、まちに住む高齢者に参加してほしいと考えています。また、商店街の活性化にもつながると思います。

川中委員 イベント開催後、まちづくりにはどのような発展性がありますか。

発表者 高齢者の健康維持に役立ちます。イベントは健康維持活動のPRと考えています。

川中委員 昨年度の「ハロウィン仮装フェスティバル」はどのように開催しましたか。費用は自費ですか。

発表者 昨年度のイベントはどこの助成金も受けていません。会員の会費と商店街の協賛金で開催しました。

川中委員 衣装代を助成金に含めた理由をお聞かせください。

発表者 参加する約20名の高齢者のために一人あたり1000円を考えています。

5 片平学区連絡協議会



クリーンキャンペーンなごや2015への参加、ECOカフェミーティングの開催による地域コミュニティとの交流、花をベースに

西澤委員長 提案書の支出内訳について花や苗の購入費用が多いが、将来的には活動が継続できますか。

発表者 この1年活動を続け、地域の中の「花育」はかなり浸透してきました。この結果、住民が自主的に花植えなどを行うようになりました。この活動をさらに継続することによって地域住民の主体性が増すと考えています。

西澤委員長 まちづくり活動助成金を受け、地域にどのような波及効果がありましたか。

発表者 「花育」という情報発信をしたところ、花を育てることが浸透してきたとともに、「クリーンキャンペーンなごや2015」では親子ともに積極的に参加する住民が増えてきています。また、従来からある老人クラブの方も活動に参加いただいています。

した情操教育「花育」を基本に、花植え活動、環境美化の活動をさらに片平学区全体に広め、浸透させることを提案しました。

西澤委員長 ECO カフェミーティングの講師は決まっていますか。

発表者 講師は具体的にはまだ検討中ですが、昨年度の講師を参考に考えています。

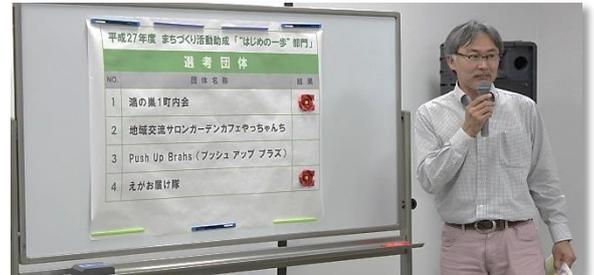
西澤委員長 今後の活動の発展をどのようにしていくとともに活動のスタートである老人

発表者 クラブの活動の高齢者の健康維持、あわせて多世に考えていますか。

地域の住民が積極的に活動してくれるケースが増えており、それを大事に代交流にもつなげていきたいです。

◆ 「“はじめの一步”部門」結果公表

平成 27 年度まちづくり活動助成「はじめの一步」部門の助成団体の選考結果を発表しました。事前に書類審査を行い、応募があった4団体の中から2団体を選考しました。



「はじめの一步」部門」選考団体（2 団体）

● 鴻の巣 1 町内会

● えがお届け隊

◆ 「地域“魅力” アップ部門」1次通過団体の公表

委員による1次投票の結果、1次審査を通過した団体の公表を行いました。通過したのは発表団体すべての5団体です。会場からは拍手と歓声があがりました。



1次審査通過団体

- ひらひら日本
- 和みの散歩道の会
- 特定非営利活動法人 久屋・エコまちネット
- 特定非営利活動法人 PPKグループ
- 片平学区連絡協議会



◆ 「地域“魅力” アップ部門」2次審査 公開質疑

1次審査を通過した団体に対して、委員による公開質疑を行いました。

公開質疑

◆ ひらひら日本



西澤委員長 フィールドツアーの具体的な開催場所をもう一度お聞かせ下さい。

発表者 すべての詳細は決まっていないが、多様なオープンガーデンツアーは、名古屋市内に限らず、オープンガーデンを行っている個人宅で開催予定です。川に沿って生物多様性を学ぶツアーでは、天白川の下流から上流を学びながらサイクリング等す

る予定です。蜜の集まる花々と養蜂場のツアーは、何人かの候補のはいるのでこれから交渉したいと思います。

西澤委員長 公園など公共の場所の利用はありますか。

発表者 東山動植物園等の利用は検討中ですが、これから交渉したいと思います。

◆ 和みの散歩道の会



川中委員 案内看板設置がどのようにまちづくりに関係するのか聞かせて下さい。

発表者 会員をはじめ、地域住民のワークショップ等のイベントへの参加だけでなく、今後はまちづくり活動にも参加できるように発展させたいと思っています。

「池内猪高線」はできて間がないため、道のりや位置が浸透していないので、案内看板の設置により近隣の方も迷うことなく「和みの散歩道」に足を運んでほしいと思います。また、周辺の地域とも交流し、広域的なまちづくり活動に発展させたいと思っています。

◆ 片平学区連絡協議会



宮部委員 今回の提案の発展性にある「バタフライガーデン」への想定についてお聞かせ下さい。

発表者 まだ、具体的ではないが、民有地に花をいっぱい植えて蝶が来るようにしたいと思います。実際に、一部の地域ではプランターに花を植えて、蝶や蜂が来る「花街道」を実施しています。将来的には、民有地を借りて「バタフライガーデン」を作りたいと思います。

宮部委員 今後「バタフライガーデン」は地域にどんな波及効果があると思いますか。

発表者 「バタフライガーデン」も想定にありますし、全国都市緑化フェアのふれあい拠点として地域が発展できるように考えています。

◆ 特定非営利活動法人 PPKグループ



田尾委員 イベント開催後にまちづくりにどのような発展性があるかお聞かせ下さい。

発表者 日頃から、高齢者が一歩でも家から出るようにラジオ体操やゴルフ、詩吟、料理研究会などを開催しています。参加できる場所を提供することで、参加者間に交流が生まれ、輪が広がることで地域活性化にもつながっています。

◆ 特定非営利活動法人 久屋・エコまちネット



石松委員 名古屋市の社会実験の実施と、今回の主体的に行うまちづくり活動とはどのような住み分けがありますか。

発表者 住宅都市局のまちづくり課からは今年も社会実験の実施を依頼されていますが具体的な内容は決まっていません。今年も自分たち独自で行う予定です。

石松委員 活動項目の予算書にあるファシリテーターの役割を具体的にお聞かせ下さい。

発表者 ファシリテーターの役割は、提案している「パークヨガ」等のプロジェクトの運営

を想定しています。参加者と講師との間の調整的な役割もあります。

石松委員 ファシリテーターは外部の方を想定していますか。

発表者 基本的には事前に募集をし、活動の主旨を理解して、実施できる方を考えています。

石松委員 場所の提案だけでなく、提案内容のまちづくり活動の主体性についてお聞かせ下さい。

発表者 公園を利用したまちづくり活動がまだ地域全体には広がっていないという実感があります。今後の課題であり、公園の新たな価値観を見つけ、この助成金を利用して、成し遂げたいと思います。

西澤委員長 発表を聞いてわかったのですが、会員さんは久屋大通り公園近くにお住まいですか。近隣住民にとって久屋大通り公園が非常に重要であるということですか。

発表者 会員の 3/4 は久屋大通り周辺の住民です。そこにこの地域が好きだという方が会員になっています。

西澤委員長 近隣の人は久屋大通り公園をどのように認識されていますか。

発表者 2 つに分かれると思います。新しい住民は、まちの印象や緑があるからいいという人が多く、昔からの住民は危険な公園だという認識があり、大きな隔たりがあります。どちらの住民も素敵なまちという認識はあると思います。

◆ 「地域“魅力” アップ部門」最終結果の公表

委員による 2 次投票の結果、選考団体の公表を行いました。1 次通過団体 5 団体のうち、4 団体が選ばれました。



順位	No.	団体名称	委員の平均点 (15点満点)	選考にあたって重視する点を評価																							
				計				必要性				独創性				実現性				発展性				活動実績と主体性			
				3点	2点	1点	0点	3	2	1	0	3	2	1	0	3	2	1	0	3	2	1	0	3	2	1	0
5	1-1	ひらひら日本	9.80 点	3	13	4	0	1	3	0	0	0	2	2	0	0	4	0	0	0	3	1	0	2	1	1	0
4	1-2	和みの散歩道の会	11.60 点	11	7	1	1	4	0	0	0	2	1	1	0	1	3	0	0	0	3	0	1	4	0	0	0
1	1-3	特定非営利活動法人 久屋・エコまちネット	12.00 点	10	8	2	0	3	1	0	0	1	1	2	0	2	2	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0
1	1-4	特定非営利活動法人 PPKグループ	12.00 点	10	8	2	0	4	0	0	0	2	1	1	0	1	3	0	0	0	3	1	0	3	1	0	0
1	1-5	片平学区連絡協議会	12.00 点	11	8	1	0	4	0	0	0	1	2	1	0	1	3	0	0	1	3	0	0	4	0	0	0

◆ 委員長による講評

すべての発表を通して、西澤委員長が講評を述べました。

最後に私から全体の講評をさせていただきます。

みなさんの提出した申請書と今日の発表、質疑応答について感じたことを 4 点お伝えします。



講評：西澤委員長

1つ目は、「まちづくり」という言葉そのものを含め、いろいろな単語の概念が共有されにくく、特に外来語の表現や人によっては意思が伝わらないということです。大切なことは、他者に伝えること、独りよがりにならないことです。みなさんは自身で活動を行っているので、その活動の意義を理解していますが、他者にわかってもらうためには理解してもらえよう説明することが大事です。それができると独りよがりにならず、概念整理もでき、自分たちの活動の問題点もわかるようになります。ぜひ他者に理解してもらおう努力をしてみてください。また、まちづくり活動は、一人で行うものではなく、複数の人と協働で行うものなので、グループ内においても単語の概念を共有することは大切です。他者にわかりやすい説明と、そのプロセスの中でグループの活動をもう一度確認するのも重要なことです。

2つ目は、個々の活動とまちづくりの関連についてです。昨年と同様、意図的に質問しました。みなさんの活動に意味があることは理解しており、個々の活動を否定するものではありません。『まちづくり活動助成』の選考は、助成の対象としてどういう意味があるのかを審査します。「まちづくり」というキーワード、あるいは「まちづくり助成」という点でどういう関係があるのか、活動を継続していくことで地域がどう変わるのか、まちがどのようになるかのイメージの共有が必要です。

3つ目は、まちづくり活動の波及効果を考えないといけないのですが、団体の活動が広がれば、会員数や予算の規模が増えるということについてです。これらは、数字に表れてわかりやすいのですが、それは目的ではありません。勘違いをしやすいのですが、これらは活動の途中で起きている現象であり、まちづくり活動の波及効果ではありません。

4つ目は、団体の理念と具体的な活動の関係についてです。提案のあった活動は具体的で何をするのかわかりやすいのですが、その活動と団体の理念の関係性がわかりにくい点や、飛躍しすぎている点を感じられました。これは、1つ目にお伝えしたことと関連しますが、理念と活動の関係性が他者に伝わるよう説明することが大切です。活動を進めていくと充実感が得られると思いますが、そこでも常に、理念と活動が乖離していないかという確認は必要です。ただ、理念はずっと同じ必然性はなく、世情や活動の変化に伴い変わることも思います。「まちづくり」に必要な理念に対してその活動の内容との関連性がうすくなってしまわないよう、この活動でいいのかという問いかけを時々グループの中で話し合い、確認してください。

今回は応募団体が例年に比べて少なかったのが残念ですが、少なかったからといってハードルを下げて審査したわけではありません。応募の手引きに書かれている審査基準にある、①必要性 ②独創性 ③実現性 ④発展性 ⑤団体の活動実績と主体性の5項目を例年と同じように審査して12点以上の団体を選考しました。

◆ 閉会

15:00に全てのプログラムを終了し、閉会しました。参加された方にはアンケートにご協力をお願いして、帰る際に回収をさせて頂きました。

アンケートには、他の団体の活動等も参考になることや、今後も公開での選考会を続けてほしい、まちづくり活動助成の助成金についてさらに周知すれば、活動団体や地域が増えるのでは。との声が寄せられました。